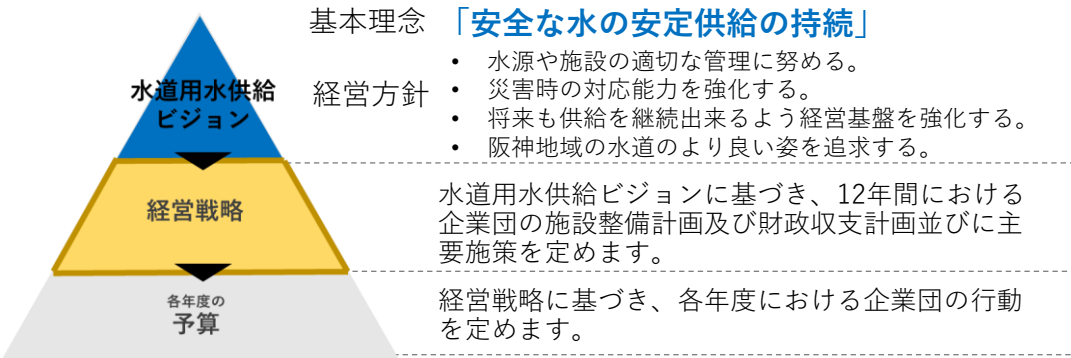


01 経営戦略

1 経営戦略の位置付け

阪神水道企業団水道用水供給ビジョン2017の基本理念である「安全な水の安定供給の持続」の実現に向けた中長期的な経営の基本計画です。



2 経営戦略の計画期間

計画期間	経営戦略の見直し	分賦基本水量 分賦割合（単価）
12年間	4年毎	12年間を見通した上で、4年間（2024年度～2027年度）分を決定

02 現状と課題

現状			課題・経営環境	
耐震化及び財政				
経営戦略2020 目標値	累積欠損金	資金残高	■ 施設の老朽化及び更新需要の増加 ■ 水需要の減少 ■ 人材の確保・育成 ■ 物価等の高騰及び不確実性の高まり ■ 自然災害の激甚化 ■ 水質課題の顕在化 低水温期かび臭、有機フッ素化合物	
おおむね達成	2022年度末に 1年前倒しで解消	約129億円		
経営戦略2020における主な決定事項				
施設規模の適正化		広域連携		
2027年度 ダウンサイジング	2024年度 2025年度	宝塚市増量 明石市新規供給	■ 国の政策 国土強靱化、広域連携、脱炭素化、働き方改革	

03 経営戦略2024

1 基本方針及び重点取組事項

経営環境の変化や企業団の課題を踏まえ、『水道用水供給ビジョン』に掲げる「経営方針」に基づき、必要となる様々な施策を推進します。

特に「施設の適切な維持管理及び着実な更新」「災害対策の推進」「人材の確保/育成及び業務の効率化」「収支改善策の実施・検討」に重点的に取り組みます。

このほか、デジタル技術を活用した業務の効率化・高度化、構成市との連携強化、DXに向けた取組み、安定供給を前提とした脱炭素化に向けた取組みも進めます。

重点取組事項			
施設の適切な維持管理 及び着実な更新	災害対策の推進	人材の確保/育成 及び業務の効率化	収支改善策の 実施・検討

2 主要施策

水道用水供給ビジョン		
基本理念 “安全な水の安定供給の持続”		
企業団の課題 経営環境	水道用水供給ビジョン 経営方針	経営戦略2024の主要施策
施設の老朽化及び 更新需要の増加	水源や施設の 適切な管理	■ 適切な水質管理 （定期検査・水質監視、粉末活性炭自動注入装置等の導入の検討） ■ 施設の適切な維持管理及び着実な更新
水需要の減少	災害時の対応能力 の強化	■ 施設の耐震化 ■ 停電対策・浸水対策・土砂災害対策の強化 ■ バックアップ機能の向上 ■ 危機管理体制の強化
人材の確保・育成	経営基盤の強化	■ 施設規模の適正化/費用負担の見直し ■ 経営努力の継続等 ■ 組織体制の強化（職員の確保、人材育成、技術継承等） ■ 進歩する技術への対応 ■ 官民連携
物価等の高騰及び 不確実性の高まり		
自然災害の激甚化		
水質課題の顕在化		
国の政策	阪神地域の水道の より良い姿の追求	■ 阪神地域を俯瞰した広域連携（明石市への新規供給等） ■ 地域住民に対する情報の発信 ■ 更なる脱炭素化に向けた検討・実施

水源や施設の適切な管理

適切な水質管理

- 「阪神水道品質保証プログラム」の運用の継続
- 低水温期のかび臭や有機フッ素化合物等への備えの検討

施設の適切な維持管理及び着実な更新

- 構造物及び管路
 - ・ 計画的な施設の更新
 - ・ 施設点検の計画的な実施及び適切な補修による施設の延命化
- 設備
 - ・ 点検整備の適切な実施による予防保全
 - ・ 点検業務の効率化（デジタル技術の活用）
 - ・ 企業団の更新・点検整備基準に基づく計画的な更新

経営基盤の強化

施設規模の適正化（2027年度）

- 施設規模のダウンサイジング
 $1,289,900\text{m}^3/\text{日} \Rightarrow 992,400\text{m}^3/\text{日}$
 【一日最大給水量：
 $1,128,000\text{m}^3/\text{日} \Rightarrow 815,241\text{m}^3/\text{日}$ 】

費用負担の見直し（2027年度）

- 分賦金：固定費を2分割する仕組み（三部制）

経営努力の継続等

- 水道施設上部空間の有効活用等

組織体制の強化

- 計画的な人材の確保、人材育成
- 多様な人材の活躍できる環境の整備

進歩する技術への対応

- 新技術の導入による維持管理の効率化

官民連携

- 一括発注方式（設計、施工等）の導入検討

災害時の対応能力の強化

施設の耐震化

- 計画的な施設の更新による管路や構造物の耐震化

停電対策・浸水対策・土砂災害対策の実施

停電対策	浸水対策	土砂災害対策
100L/人/日を目安とする設備の整備	浸水防止パネルの嵩上げ等	豪雨や地震等による土砂災害の防止

バックアップ機能の向上

- 浄水場系統間の連絡機能の強化
- 貯留施設の貯留能力の増強

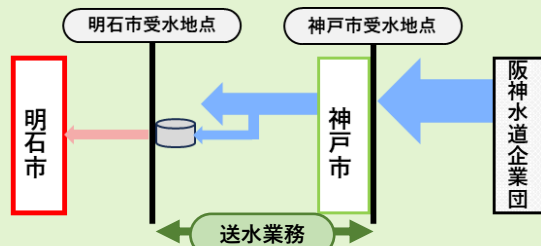
危機管理体制の強化

- 企業団内の危機管理訓練、危機管理研修
- 応援協定に基づく実地訓練

阪神地域の水道のより良い姿の追求

阪神地域を俯瞰した広域連携

- 明石市への新規供給：2025年度



水道法の第三者委託

地域住民に対する情報発信

- 構成市と連携した水道事業の広報・PR活動
- 構成市の水道利用者に対する情報の受発信

更なる脱炭素化に向けた検討・実施

- 省CO₂効果の高い設備機器の導入等

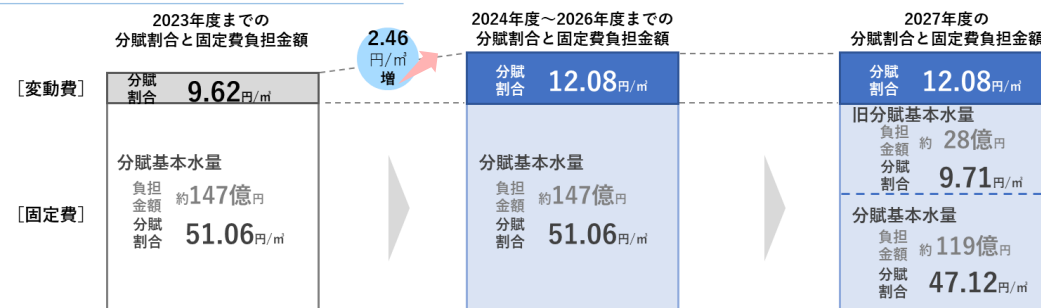
3 水量と分賦割合

分賦基本水量（2024年度-2027年度）

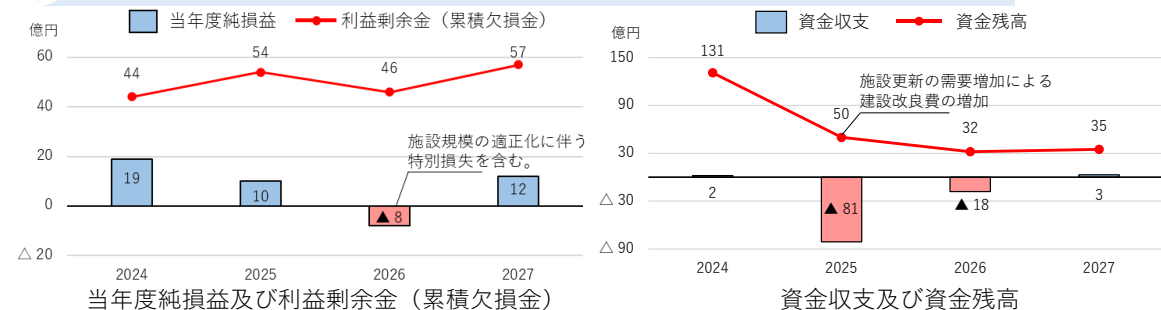
（単位：m³）

	2024年度 （宝塚市増量）	2025年度 （明石市新規供給）	2026年度	2027年度 （施設規模適正化）	2027年度 旧分賦基本水量
神戸市	162,713,715	160,761,151	160,579,925	140,904,144	161,019,870
尼崎市	59,266,875	58,555,455	58,489,425	45,074,364	58,649,670
西宮市	48,046,775	47,470,291	47,416,785	44,444,844	47,546,694
芦屋市	10,512,365	10,386,113	10,374,395	9,385,704	10,402,818
宝塚市	7,665,000	7,665,000	7,665,000	9,333,000	7,686,000
明石市	-	3,366,720	3,679,200	4,479,840	3,689,280

分賦割合（2024年度-2027年度）



4 財政収支の見通し



- 2024年度-2027年度：分賦金（固定費）の維持

- 将来：分賦金（固定費）の引き上げの検討が必要となる見通し※高い物価水準が継続した場合